



Biz Com

<http://www.rikkyo.ac.jp/sindaigakuin/bizsite/graduate/bizcom.html>

2018年冬号

— ビジネスシミュレーション特集号 —

2018
VOL. 58

CONTENTS

01 巻頭インタビュー 立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科特任教授 枅谷 義雄氏

08 研究会紹介 / RBSだより

03 17期生ビジネスシミュレーション / チーム紹介

10 修了生インタビュー

立教大学大学院
ビジネスデザイン研究科 特任教授

枅谷 義雄

Yoshio Masutani

RBS 1期生として。 特任教授として。

RBS1期生である枅谷先生。
RBSで得た事。実務の世界で感じた事。
そしてこれからのRBSに望む姿を伺いました。



— 枅谷先生の自己紹介とご経歴を教えてください。 —

1989年、平成元年に立教大学経済学部経済学科を卒業しました。在学中は体育会ラグビー部に所属して、部活漬けの毎日でした。大学を卒業して商社に勤めました。1993年から1998年まではロンドンに駐在。1998年に日本に戻ってきたところ、勤めていた会社が倒産。そこで古河電気工業株式会社に入社しました。キャリアが海外のビジネスで一貫していることもあり、現在はグローバルマーケティングセールス部門のグループマーケティング統括部で、統括部長をしています。

— 枅谷先生はRBSの1期生と伺っています。 —

2002年4月にRBSが開設され1期生として入学しました。当時は全員が日本人でした。修士論文は並木先生が指導教官でした。研究を続けていくうちに研究が面白くなってきて。後期課程への進学を考えて、1年かけて修士論文を書き直したので、RBSには3年通いました。当時はDBAがなかったので、2005年4月に経済学研究科経済学専攻に進学。2008年3月に修了してPh.D(経営学)の学位を取得しました。後期課程在学中は亀川先生にご指導を仰ぎました。

—— RBSに1期生として入学された背景を教えてください。

古河電気工業株式会社は、理系だと、ほとんどの方がマスターかドクターです。その様な環境において自分の居場所を作っていく時に、自分に足りないものは何かを考えたのです。文系で生きていこうと思った時に、自分を助けてくれるもの、ビジネスの知識は必要だと感じました。そのタイミングで母校である立教大学がRBSを開設すると聞きました。1期生というのも面白そうだなと思い受験しました。ロンドンビジネススクール(LBS)に留学している友人が多かったので、海外のビジネススクールも考えはしましたが、転職して4年も経っていないのに、退職して海外留学は出来ないなと。そこで国内であるなら母校である立教にしようと。体育会に所属していたので、母校愛も強いんですよ。

—— ラグビーから学びへ。大きくシフトされていますね。

海外駐在経験が非常に大きかったと思います。海外の人は自分に足りない知識やスキルを、自分の努力で得ようとしていますよね。海外のビジネススクールは、その様な人たちが集まっていると思います。総合的・総花的に知識を増やすよりは、自分に足りない知識を学ぶ意識が強いのではないのでしょうか。どちらかと言えば周りにOff-JT的な考え方の人が多かったので、知識はいつでも努力すれば得られると思っていました。徐々に働いていく中で考え方が変わっていったのだと思います。

もし、ずっと日本にいたとしたら、One of Themではないですが、その会社の文化に流されていたのではないのでしょうか。古河電気工業株式会社は歴史がある分、会社としても従業員の方々も真面目。私の周りにも海外でMBAを取得された方がいらっしゃいます。その様な環境の中で勉強するというよりも、知識を得る事に関してはずっと食欲になっていきましたね。

—— RBSではグローバル経営戦略の講義を受け持たれていますが、実務家教員としてグローバルなビジネス環境におかれた人材に求められる知識、スキル、マインドはどの様なものとお考えでしょうか。

グローバル化というと日本国内とか海外とか英語とか、そうやって皆さん分ける傾向があるけれど、

実はグローバルと国内って全く一緒なんです。グローバル経営、国際経営という学問領域で特殊な理論ってほとんどない。既存の経営学の理論で説明がつけます。グローバル市場と言えば、当然日本も含まれます。自分の実体験からも世界中どこへでも、常にパフォーマンスを最大限に発揮できる様な人材が増えて良いと思います。しかし、大切な事は自分が持っているスキルや能力を、いつでもどこでも最大限に発揮できる状態に、常に自分を置いておくこと。それが、グローバル時代のビジネスパーソンとして、一番大切であると考えていますし、講義もその考えに沿った内容にしています。

—— RBSの学生へのメッセージをお願いします。

RBSって留学生の比率が非常に高いですよ。私のクラスも50人や70人の履修生の中で半分以上、7割・8割が留学生です。だからこそRBSにはもっと留学生を支援するインフラがあっても良いと思うんです。もっと留学生をサポートする体制整備が必要ですね。また留学生自身も日本人と一緒にでもっと講義を活用して欲しい。それがゆくゆくはRBSのレピュテーションに繋がると思います。だからこそ、留学生にはもっと頑張ってもらいたいと思います。

あと、日本人と留学生の交流の機会をもっと増やして欲しい。これは学生だから出来る事です。シミュレーションのチーム以外にも、選抜チームでコンペを行うとか色々和交流して勉強する場は作れるはずなんです。

BD研やBizComが仕組みを考えても良いと思います。BizComの記事も留学生向けや情報発信の記事が無い様に思います。どちらかと言えば、インプットしたものの紹介に留まっていますよね。その点も工夫次第で変えていけると思います。

RBSはグローバルの縮図ですよ。RBSで日本人と留学生が打ち解けられなかったら、どうやってグローバル化を進めていくのか。仕事とは違う学生という交流できる環境で、打ち解けられなかったら、グローバル人材とは言えないですよ。RBSに求めるだけではなく、学生の皆さんの工夫次第で可能性を広げて欲しいと考えています。その点からもBD研やBizComは日本人と留学生と一緒にやる事が効果的ですよ。何よりもプラグマティカルでプラティカルだと思います。

取材記事：16期生／島田 彰子 17期生／加勢 翼 田邊 卓也 白井 岳